

平成26年度 第1回南伊豆町学校統合審議会議事要旨

- 1 開催日時 平成26年11月18日(火) 19:00～21:05
- 2 開催場所 役場3階 議場
- 3 出席者 出席員17名、欠席委員1名、事務局6名
- 4 議 事
 - ・ 会長、副会長の選出
 - ・ 諮問
 - ・ 統合審議会について
 - ・ 前回の統合審議会の内容について
 - ・ 南伊豆町内の児童生徒数について
 - ・ 南上小学校の児童数について
 - ・ 複式学級について
- 5 資 料
 - ・ 学校統合審議会スケジュール
 - ・ 南伊豆町学校統合審議会条例
 - ・ 学校統合審議会の進め方
 - ・ 南伊豆町学校統合推進委員会規則
 - ・ 南伊豆町立小中学校の統合について（前回審議会の答申）
 - ・ 平成26年5月1日現在の児童・生徒・教員数（南伊豆町内）
 - ・ 平成26年度賀茂地区乳幼児・児童・生徒数
 - ・ 南上小児童数推移
 - ・ 今後の南上小児童数推移
 - ・ 平成26年度における静岡県公立小中学校の学級編制の基準
 - ・ 文部科学省資料（小中学校の適正配置に関する意見）

会議経過（概要）

教育長挨拶

全国で約半分の市町村が、896だったでしょうか？ 将来消滅する自治体があると盛んに言われています。そういう中に本町も入っています。

一つ、大きな流れとして子供の数が本当に少なくなっていく。

それが町自身の人口減少につながっている。

ひいては、学校の統廃合・再編につながっている。国の方もそういう風な、国の流れというか、動きを見せていることすら感じられます。

本町も2040年に、平成26年後ですが、現在人口が8,000人。9,000人を割りましたので、6,000人ぐらいになるのではないかと、県の試算も出ています。そういう中で、子供の数の減少も含めて、学校の統合のことが心配になるのですが、振り返りますと、本年、この4月に『三浜小学校』が、『南中小学校』と統合して、新たな『新生 南中小学校』として、今動き始めています。

そういう面では、大変順調に行っているのではないかと思います。

親御さんにとっては、通学のことが大変かもしれませんが、今は、ひと通り順調に進んでいると伺っています。

さて、そういった中で、この『学校統合審議会』を開いた趣旨についてですが、実は、この前身の会は、『平成18年 学校統合審議会』の答申がございました。

その中で、今お話した三浜小も、平成26年、今年、統合するのが良いであろうと、そういう流れの中にあっただのです。

平成18年度の答申の中にこのような文言がございます。

『南上小学校は、平成26年以降も複式学級が、解消されない見込みであることが判明した時は、改めて、学校統合審議会を設置することが適当である。』と、このような答申がありました。

私どもは、この答申に基づいて、本日、第1回の学校統合審議会を開催しまして、この後、教育委員長の方から皆様に対して、学校統合審議会の皆さんに対して、南上小学校の再編成について、諮問をしていくというものでございます。

今回の審議会については、特に私どもも「まず、統合ありき」ではなく、今後の南上小学校の児童数の推移、あるいは、保護者や住民の声、小人数、或いは複式学級の持つ、教育効果とその長短、メリット・デメリットがあるかと思

ます。そういうことを含めて、なんと言っても、これからの子供が、どうしたら幸せになれるか？そういうことについて、『適正な学校の規模』、或いは『適正な学級の規模』、或いは『適正な学習集団』そういったものを含めて、『統合の是非』を全般的に皆さんで話し合っていていただいて、この審議会を進めて行っていただけたらありがたいなと考えているところでございます。

任期は皆さん方に2年という形にしておりますが、早めに答申が出されれば、それで宜しい訳ですが。

なお、この会の答申が出されますと、私どもは、新たにもう一度、審議委員会を再編成いたしまして、今後の、町全般の小学校、さらには中学校、町としての小中学校の今後の再編成についても、再度、審議していかなければならないなと考えております。

したがいまして、今回の皆様方の審議会は、南上小学校の再編についてと、南上小学校を中心に審議していただければ有り難いなと考えております。

私からの挨拶については、長くなりましたが以上です。

どうぞ審議の方をよろしく申し上げます。

事務局

本日の次第の裏に名簿がありますが、名簿の中の5番、南中小学校PTA代表は、出張のため欠席という連絡がありました。

また、9番の南上小PTA役員ですが、所用がありまして、時間が来ましたら退出させていただきますので、ご容赦願います。

それでは、委嘱書の交付に移ります。

「委嘱書交付」、「自己紹介」

事務局

ありがとうございました。

続きますのは、会長・副会長の選出ですが、この統合審議会条例に則って行いますが、第3条の方に委員の互選とあります。

何か進め方等々について、ご意見があればどうぞ。

特に皆さんからのご意見がなければ、事務局の方で、『事務局案』でよろしければ、事務局としては、前回の統合審議会のこともよくご存じである木下さんを会長に、南伊豆中学校長を副会長にと、というのが事務局案ですが、皆さんいかがでしょうか？

委員各位から「異議なし」の声があがる。

では、会長、副会長で今後の『統合審議会』を進めたいと思います。
会長、席を前に移ってください。

教育委員長より諮問文が読み上げられる。

教育委員長

南伊豆町学校統合審議会 会長 木下和美様、南上小学校の際編成について、南伊豆町学校統合審議会条例第2条の規定により諮問します。
諮問理由、前回の答申を受けて、南崎小学校、三浜小学校は統合されましたが、南上小学校については、平成26以降も複式学級が解消されないことが判明した時は、改めて審議することが適当とされています。ここで 改めて、南伊豆町学校統合審議会に意見を求めるものであります。よろしくをお願いします。

教育委員長 退室

議事の審議は、会長に移行する。

【会長の挨拶】

会 長

本当に審議ということで、大変重い役で、頭が痛くなるような、そんな思いなんですけど。

統合という、審議ということについて、文科省はどう考えているのか、ということと思うんですけど、下調べをした訳ではないんですけど、私の記憶によると、文科省は、“学級規模の学級数の適正学級数”と言うのは、2学級以上というような押さえをしていたんじゃないかと思います。

ただこれは、法的な拘束力が有るものではなくて、現段階においては、1学年：2学級以上というのを“満たさない学校”というのを、相当数出てきている訳ですけど、そういう中で、南上小学校をどうするのか、というのを審議する訳ですけど、子供たちにとって、どういう方法が一番良いのか、ということ、皆様方にご意見を出していただけたらいいんじゃないかと思っております。よろしくをお願いします。事務局お願いします。

事務局

議事とありますが、ここでどうこう、これに対して決めるものではありません。

1番から説明いたします。

「学校統合」という話になると、皆さん構えてしまいますが、冒頭の教育長の挨拶が全てでございます。

前回の答申に基づいて、まずもって“有りき”ではないと、南上小学校の子供たちのため、これから南上で生まれてくる南上の子供たちのため、何が良いのかを話し合う会議の場です。

過去の学校審議会の議事録を見ていますと、校舎が新しいとか、体育館が新しいとか、いろいろと話がありましたが、南上小学校は、そういったものが全くありません。単純に、子供たちのためにと言うことで進めたいと思います。

本日ですが、先ほど委嘱書を渡されて、皆さん任期が2年ありますが、第1回は、“今の”南上小のことを皆さんと一緒に確認しようという、第1回にしたいと思います。

事務局からの説明

第1回学校統合審議会 資料

1ページ:学校統合審議会のスケジュールのスケジュール他という資料でございます。

委嘱書をお渡ししましたけれど、皆さんの任期は2年です。

平成28年11月18日までです。

公募委員を募集し、1名応募がありました。

公募委員を10月の教育委員会で適切であるかどうかを審議し、認められたということでございます。

それで、このメンバーになりました。審議の結論が出たら終了します。

委員会は1月に1回を目安として第1回は、本日は。

本日は、南上小の現状を把握しましょう。人事異動や役員交代などですが、委員交代時は前任者の残任期間を引き継ぐことにします。

審議会は公開です。議事録の作成のため、記録媒体での録音又は録画をするときがあります。

地区等において事務局へ説明を求められれば説明に伺います。

それでは資料の内容について説明します。

2 ページ：南伊豆町学校統合審議会条例について

みんなで納得して進めたいです。仮に多数決になっても南上地区の方が負けな
い状況になっていると感じております。

3、4 ページ：学校統合審議会の進め方のイメージ図

方向性を示して結果を出すものです。『こうすべき』と方向を受けた教育委
員会は、これを町に伝えます。結果を町に伝えて終了です。

町は、結果の報告を受けて、この説明図のように動きます。

次に、前回の審議会を受けて中学校の統合について、審議会が始まります。

時期は未定です。中学校の統合については、デリケートな問題です。

例えば、バスダイヤが複雑になってくるなど。

5～8 ページ：前回の南伊豆町統合審議会について

(朗読)

9～10 ページ：児童生徒数について

(児童生徒数の読み上げ)

11 ページ：複式の考え方について

基本的に複式学級は、下の学年から複式を組みます。

南上小では、来年の27年度は、2年生3年生の5人+5人、

次の28年度は、この年は複式が2クラスになります。

2年・3年の複式、4年・5年の複式、

逆に29年度の2年・3年は複式になるのですが、静岡県の中のルールでは、
先生が1人つくので、複式にはなりません。

ただ、29年度ではやはり4年生と5年生は5+5で複式です。平成30年も、
やはり複式です。

平成32年度は、複式は、一時的に解消されますが、転入転出にもより、どう
なるか判りませんが、その後も、複式は続くであろうと予想されます。

12 ページ：今後の南上小児童推移について

あくまでの推計ですが、南上小の将来は、こう予想されます。

13 ページ:平成26年度における静岡県公立小学校及び中学校の学級編制の基準について

学級編成のルールについてですが、複式の基準は二つの学年の合計児児童数が16人の場合複式になりますが、静岡県は複式解消のため15人でも教員を配置いただけるので複式が解消されます。15人いるかどうかのポイントです。

文科省HPからの抜粋記事

2/13 ページ…適正学級について

現在の基準について

文科省の考える適正の数

- 会 長 平成32年の2年と3年は、複式になるので訂正してください。
事務局からの説明について、何かご質問等があれば、受付します。
「なし」の声
では、2番目の前回の統合審議会の内容については、いかがでしょうか？
- 事務局 事務局からですが、前回の委員の会長と副会長に前回の雰囲気とか参考にお話しを伺いたいたいです。
- 会 長 私はいさつでお話ししたので副会長願えますか。
- 委 員 前回の南上のPTA会長さんや区長さんも出席されていましたが、やはり「自分たちの地域で、子供たちが朝、おじいちゃん、おばあちゃんに『行ってきます』『ただいま』と帰ってくるその姿を、非常に、今後も残していきたいので、なるべく統合はせずに、“我が村の学校”として残していきたい」というご意見が、非常に強かったという印象に残っていますね。
- 事務局 前回の統合審議会「複式が解消されない」など、“複式”という表現が、かなり出てくるのですが……。
- 委 員 前回の時は、けっこう 他所から移住されてくる方が、今後、これから増えてくるのではないかと、希望的な意見もあって、“複式”が解消されるのではないかと、ちょっと南上にはプラス思考の形で話が進んでいたように思いま

すけど。

会 長

確かに、今のおっしゃった様な内容で、南上小に関しては、いわゆる、当時は、結論を先送りしたような形になっていたように思います。

で、複式についても、かなり色々な意見が出たように思います。

複式がダブル、2つ、1つの学校の中に出ちゃうというと、果たしてそれは、どんなもんかということで、三浜小の結論は、平成26年度に統合が良いんじゃないかということで…。

確か当時は校舎の補助金の事とかもあったと思いますが、結果は、そういういう形(統合)になったと思います。

事務局

事務局から統合問題のことについては、保育所のことも有ります。

保育所の耐震化のこともありますが、現在、保育所は「南伊豆認定こども園」と「南崎保育所」の2つになります。

今、来年度の平成27年度の4月からの入所受付けを進めているところですが、まだ、全部が揃いませませんが、やはり、南崎保育所の入所者数が少ない状態です。南崎保育所の立地条件とか、出生率とか見ると現実的に将来的なことを考える段階とも言えます。これは、参考意見です。

委 員

南崎保育所の園児の数を見ると31名になっているが、竹麻地区から来てくれれば良いが、結構、認定こども園さんの方に流れているんじゃないのか？

事務局

はい、義務教育ではないので、そもそも学区はないが、地元の、ここで生まれたら、ここの保育所的なものは在ったのですが、時代背景が変わっちゃったって言うのか、保育所なので、お父さんお母さんの仕事の勤務先の状況にもよります。

東日本大震災の影響で、沿岸部よりは、内陸へ。また、「新しいところの方が良いよね」と言う父兄がいるのも事実で、今、31人というご意見がありましたが、南崎保育所というのは、こちら側が「認定こども園」なので、幼稚部があります。南崎保育所には保育所なので幼稚部はありません。幼稚部の代わりとなる“私的契約”という、幼稚部と同じような受け入れ態勢もあり、ここに10をたして、40何人というのが正直な今の数です。ただ40何人のうち15人が今度、新1年生に上がりますので、確実に15人は減ります。で、何人、園

に入るのかな、というのが南崎の現状です。

委員 聞くとところによると『南伊豆認定こども園』は、若い奥さん方が多くて、南崎の方はお年寄りが多いと…、そういうことを、少し聞いたことがあるけど、そんなことは無いのですか。

事務局 そんなこと無いです。若いお母さんもおりますよ。

副会長 預かってくれる時間が違うというだけですよ。幼稚園は終わりが早いんですよ。迎えに行く時間が早いというだけですよ、その関係で選んでいるというのはありますよね。

委員 リストを見ると、10ページの東伊豆町の大川小学校というのは、20名でまだ、統合しないでやっておるようですけれど、これについては、どうなんですか？

南伊豆町ではないですけど、統合に関する問題点なんか、他の地区のことですが、どうなんですか？

事務局 大川小に赴任したことがある委員もいらっしゃいますよね？

委員 はい、大川小の教頭をしていました。

ちょうど「大川小」も、一度 統合問題が立ち上がって、今は大川小には、複式が3個あるんですが、私がいた時代は、2つに来年なるのかな？という時に、やはり40？このくらいかなあ？今の南上小ぐらいの人数だったと思うんですけども、今後どうするだということで、話し合いがもたれて、PTAの方に集まってもらって、色々と意見を聞く会をやったり、こういう審議会のようなものも行いました。

初めは、入学が1名になる平成24年度に、統合するようなことになるのではないかなと、私達も覚悟を決めていたんですが、審議会の中で、やっぱり大川区っていう区の中のすごく中核を占めている学校でもあったので、統合しないで結論になって、統合せずしばらく様子を見るということで、24年度の「もしかして統合する」っていうのは、見送られて、今に至っている訳ですけども、今のところ、いろいろなお話を聞く限り、中学校の方が新聞にも載りまし

たよね、「稲取中、熱川中の方を先にやって、大川小はまだいい」という話だったそうです。

だから、まあ人数は少ないですけど、地域と密着して、独特の教育をやったり南上小と同じように農耕活動とか、いろいろな事をやってまして、子供たちもそれなりにその中で育っているという事なんじゃないかなあと思います。

それは、委員さんたちが真剣に話し合っ、『(統合)しない』ということに決定になったということで、また、もう暫く様子を見るということだったので、その“しばらく”が、いったい何時までのことなのか？ということが……。

町長さんが、「じゃー、もうしばらくは いいなあ」ということで、そういうことになったということで。

まあ、入学がゼロになったりとかね、まあ、三浜の方は、ゼロゼロゼロと来たんですが、まあ、ゼロになったら考えなきゃいけないんじゃないかなあと。今のところ、ゼロになりそうになっても、誰か入って来ると言うような、やはり、八幡のあたりに家を借りて住んでいるご長男さん達が、子供の入学を機に帰ってくるとか あったりして、なんとかかんとかやっているような形ですけどそんなような状況ですね。

委員 統合が…、つまり、複式が2つ重なれば統合しなければいけない、と言うルールではないんですか？

会長 そんなルールは無いです。

委員 この間、校長会に行った同じグループの方が、静岡市の大川小学校は、全校で13名、水見色小学校は、全校で11名っていう分科会に出て、ああ南上よりもずっと小さくても、そうやって1校構えて頑張っている所もあるんだなど、ちょっと勇気もらって帰ってきましたけど、まあ、通学距離の問題もあると思うんですね。

すごく、きつともしかしたら、もし統合するとしたら、統合する学校からものすごく離れているとか、立地的に山の上の方だとか。そういうこともあると思うので、一概には言えないんですけど、頑張っているところもあるんだなあーって、そんなことを感じてきました。

会長 他にありませんでしょうか、

5番目のその他となっていますが、その他の件で何かございませんか？

事務局

今回の審議会が、前回の答申を受け、“複式”“複式”と言う、“複式が解消”というキーワードが出ている中においては、私も教育委員会で、学校のことを知っているんじゃないかと、思われているのも困るところも正直あるのですが、人事異動で来ちゃったっていうのもあるのですけれども、その“複式”の良し悪しが一番の“肝”だと思っております。

「複式が悪いのか」とか論にもなってくると思うんですけど、今日のところは、これは、8時半を目途じゃないんですけど、複式について、各学校長とかですね、皆さんに疑問質問を頂いて、南中小の校長は三浜小の統合を経験されて、今は統合された三浜小の児童が、南中小に通っている。

どういった意見があるのか、皆さんで聞いて共通認識をした上で、第2回、第3回に臨みたいなあと思っているところです。以上です。

会長

では、先生…。

委員

はい、三浜小学校から9名の子供たちが、南中小学校の方に統合して参りました。昨年は、16名いたんですけど、7名中学校へ入学という事ですので、実際に統合した子供たちは9名です。

6年生5名、5年生1名、4年生3名、という子供たちです。

通学距離が延びましたので、その分やはり通学に係る時間というのが、30分ほど延びました。でも、高学年の子供たちでしたので、それほど負担っていうことは無いのかなあって言う感じで見えています。で、子供たちの声・保護者の声を聴きますと、友だちが増えて良かった。色々な面で刺激を受けて良かった。学習面でも刺激を受けたっていう良い声も入ってきますし、いろいろ通学の面で大変だなっていう面もありますし、友達が増えて良かった点と、友達が増えれば、いろいろなことを経験するので、その中で、色々なことを考えている場面もあるという相談を受けることがあります。

なので、統合して良かった点、それから統合する前の小規模校でやっていた時の良かった点、両方あるので、どちらが良いというのは、かなり難しいですけども、保護者の声としては、そういう意見が上がっています。

統合したことによって、入学してきた子供たちが、新一年生ですね、一町田の方からバスに乗って通っているっていう子供たちもおりますので、そういう子

供たちの単純に通学に係る負担については、やはり徒歩で通学している子供とか、近くから通っている子供から比べると負担は大きいかと思いますが、その分、大勢の中で学習できるっていう良さもあるなあ、というところを感じているところですよ。お答えになっているでしょうか。

会 長

学校規模によって、それぞれ特徴があるんですね

私は、中学校の時、最初の赴任校が、マンモス校で1学年が10学級前後常にある学校でしたけれども、そういう学校だと、やはり子供の活力が有るんですね。学級のまとまりも対抗意識を燃やしたりして、部活もそうなんですけれども、非常に熱気のある、活力のある学校だったなあと思います。

南伊豆の三浜中学校の統合直前に勤めていましたけれども、三浜中学校は、単学級で生徒数が20人前後という規模でしたけれど、それはそれで、また家庭的な雰囲気がある中で、子供たちが教育を受けていく、そういう良さも有ることで、大きい学校・小さい学校、それぞれが良さというものを持っている訳なんですけれど、ただ学校規模が、非常に児童数が少なくなったということで今回、諮問が図られる訳ですけれど、子供にとっては、どういう状況に置かれて、教育を受けるのが一番良いのかということが、そういうところが、まず第一に考えるべきところじゃないかと思います。

複式学級というのは、実際に私は体験も無いし、見に行つて、長い教員生活でしたけれども、実際に見に行つたことも無い訳で、そういう中で『複式学級』を良いともまずいとも、何とも言いにくいところがあるんですけれども…。

まあ、「ちょっと南上の複式学級を覗いてみたいなあ」という気持ちも持ちましたけれども。その辺を説明お願いします。

委 員

はい、私は、三浜小学校にも教諭として勤めたことがあって、三浜小が初めて複式学級が、2年生と3年生でできて、7人、7人でできた時に、その複式学級の担任を、初めて三浜小の複式学級の担任をして、それが唯一、複式学級の担任の最初で最後の1回だったんですけれども、2年生7名、3年生7名で、まあ、どうなることかと思いましたが、意外と子供たちは、何て言うんですか、下の学年と上の学年が一緒になるので、学級活動で、お楽しみ会みたいな劇の出し物みたいになっても、2・3年生までグループを作ると、上の子の良さを下が学んだりとか、下の子がね、またそういう風にやったりだとか、上の子が何ていうか、うまく下の子を指導するっていうか、

庇うっていうか、なんていうんですかね。

普通6年生が、よく下の学年の子達をなんかするのと同じような状況がそこにできて。

担任は、結構大変でしたけれど、先生は、2個のことを、時間割も2つ管理するし、学級会計も一緒に管理したりとか、いろいろなものを2個 管理するので、あんなにまじめに勉強して、すごい一生懸命やったのは、私は、いつも一生懸命がんばっているつもりですけどね。

やはり、すごく大変だと思いますけれども、子供にしてみると、それはそれでひとつの単級でひとつの学年だけであるのとは違った、学びもできる機会であったりだとか、その良さも有ったと思います。

もちろん、学年で大勢いなかったりとか、担任の先生が、あっちの方へ行ったり、こっちの方へ行ったりだとかして、子供たちがちょっとさびしい思いをするとか、そういうことも有ったと思うんですけども、それはそれで言うようなことで。

まあその複式が、ずっとそこだけで行く訳でなくて、この行き方でいくと複式になったり、また、違うことになったりして、離れたりして、繰り返していく中で、それぞれの色々な学びも有るので。

もちろん、下田小学校で40人くらいの2学級なんかの担任もしたことがありますけれども、そこはそこで、やはり、(会長)先生がおっしゃったみたいな、すごいパワーもあったりしますけれども、どちらが良いか悪いかということも無いかと思うんですよね。

学力的には少ない方が、手がかけられるので、細かいところは、きちんと身につけていられるかな っていう良さもあると思いますし、大勢でいると学びあう良さがあると思うので、やはり保護者の方が、何を望まれているかとか、今ある南上の子たちに、どうしてあげることが一番幸せかということで、考えていただければいいかな、と思って。

委 員

私は、三浜地区の代表区長で、小学校の統合の話は随分しているんですけど、(自分の)子供がもう大きかったのも、実際に統合する時には、もう、学校のこととはあまりタッチしなくて…。

区長に今年なったばかりなので、統合の内容が良く解らないんですけど、さっき、会長が中学の統合の話をしていましたよね。

その時たまたま、娘が中学にいたもんで、その時の話は解るんですけど、地区

へは、町からいろいろと説明に来まして、結構、反対者が多くて、一回“ぶく”になったことが有ったんですよ。

それで2度目、統合になったのは、その後だったですよ。

その時には、一番の問題は、“通学”の問題が、一番問題になりましたけれど、あと、生徒が少ないと部活ができないだとか、対人関係のことが少なくなるだとか、そういう面があるので、みんなそういう面は判っていましたが、通学の事が一番の問題になりました。そのくらいなんですけれど。

もうひとつは、全然関係無いんですけど、この南上の「結論」というところがありますよね、先程、「平成26年度以降も複式学級が解消されなければ」と言って…。確認なんですけど、これは、いいんですか？

さっきの話だとはっきりしなかったもので…。もう一度、確認なんですけど…。

会 長 26年度以降も複式が解消されない時には、改めてまた、審議会を持ちましようということだったと思うんです。
それで今回、審議会を立ち上げた。

委 員 間違いのないわけですね。

会 長 確かに、通学の面が三浜からの通学が、小学校1年生は、伊浜から通うのが非常に厳しいんじゃないかと、確かそういう意見も出ていましたよね。

委 員 でも娘の時は、小学校は三浜にあったんですけど、保育園は、差田まで行ってたんですよ。

ですから、保育園に行く子は、差田までの定期バスに乗って行って、それで、小学生は子浦で降りて、ってあの辺もすごい矛盾していたんですけど、それでも何とかかんとか行ってましたから、中学校の通学だから大丈夫だと、統合賛成になったんです。

保育園の差田へ行くのが矛盾していたなあ当時の感じですよ。

委 員 ルールというか、前提というのかわからないのですが、複式って言っているのは、2学年が、統合した状態だけなんですか？

例えば、1年生、2年生、3年生、4年生、5年生、6年生、全員が1つのクラスになって、っていうケースはないんですか？

- 会 長 連続する2クラスですね。
- 委 員 よく海外なんかでね、かなり過疎地というか、田舎の方へ行くと、もう小学校も相当年の差が、もう4、5歳ぐらい離れた子が一緒にやったりだとかケースがありますよね。そういう前提は、今回の統合を考える場合には、無いんですね。
- 会 長 それは無いです。統合ができるというのが、連続する学年です。
「飛び」もあります。
- 副会長 「飛び」もありますけど、非常に少ないですね。あいだがゼロの時。
- 委 員 それがルールとして、例えば3学年が1つのクラスになるのはダメってことですか？
- 委 員 そうですね。3年がゼロだった場合、2年と4年で一緒にできるのは、こちらに少ない人数で8と書いてあります。
- 副会長 「飛び」の場合は、人数の規定があります。
- 委 員 参考までに聞かせてもらいたいんだけど、「複式学級」っていうのは、全然私にはイメージが湧かないです。全然。体験も無いし、見たことも無いし。それで、2年生と3年生とが教室が一緒なんですか？
- 委 員 2年生と3年生が教室が一緒に、今、南上だと2年生が5人、3年生が7人いるんですけど、一緒にの教室にいて、朝の会とか、担任の先生は一人なんですけど、朝の会とか、学活とか道徳とか、いろいろ一緒にやっていますけど、国語とか算数とかの教科については、ちょっと加配というか、支援員を頂いて、支援を町からいただいて、「分けて」やれるような形になっているので、そのまゝ学力面では、4教科については、きちんと分けてできていて、道徳とか学活とか、クラスの活動とか、朝の会・帰りの会、給食は、一緒にひとつの教室で、だから2年生はちょっと……、勉強のたびに隣の教室、空いている教室、もうひとつに移動したりして…。

- 委員 いわゆる自習みたいな形？
- 委員 いやいや、そこに先生がもうひとり付いています。分れて、勉強はちゃんとしています。
- 会長 教師に余裕があれば、2つに分けてやると。
- 委員 2つに分けてやっています。
- 会長 余裕がなければ、ひとつの中で。
- 委員 それっていうのは、“複式”じゃないような気がするね。
- 委員 授業は、複式ではないんですけど、正式な担任がひとりで、給食、朝の会、帰り会とかそういう事には一緒に。
- 委員 そうなのなら、学年が違って一緒にではできけれど、実際に算数なんか、2年生と3年生の教え方が違うのに、2年生は、まあ掛け算をやって、3年生は割り算なんかやって、どうやって教えるのかと、私も疑問に思っていてね。
- 委員 それについては、支援を頂いて、学力面ではそういう事で…
- 事務局 今の高橋校長の「支援」というのは、正式には『複式学級』なので先生は1人です。
- 委員 正式には、学習補助という形で、
- 事務局 学習補助というか、臨時職員を派遣したとイメージをしていただきたい。ただそれは、「臨時職員を派遣しなければならない」ということではないので、その時々で財政状況だとか、もちろん、誰もが行って算数を教えられるとかいうものでもないんで、かなり流動的な事は、流動的なんです。

- 委員 私は、先生がひとりでやるものだと思っていてね。
2年生は、これはちょっと1時間自習しててください。で、この時間は3年生を中心にやりますよ、というやり方をやっているのかなあと思っていたんですよ。
今聞く話だと、それは別に「複式」っていうのは、名前だけのことで、教えていることは、「単学級」っていうんですか。
単学級の様なことをやっているんだなあと、受け止めたんだけどね。
- 事務局 特別な支援員、臨時職員をですね、派遣できなくなった時は、もう先生ひとりなんです。
- 会長 全部の教科を2つに分けれるということでもない？
- 副会長 ないですね
- 委員 主要な4教科っていうか
- 会長 そこまでは、教員数で手が回らないんじゃない。
- 委員 あの、2学年が一緒に勉強するのもありました。
三浜なんかは、年間の計画が決まっているので、A年度、B年度ということで、2学年分の学習を上手く組み合わせて、2年間で2学年分の学習ができるように、って計画的に進める方法もやってた教科もあります。
なので、3・4年生一緒に理科の勉強をしましょう。で、2年間でやりましょう、っていうのは、ずっとその学年が複式で続くっていうことが判っていた時はそういう風にやって、全部の教科内容が2学年の中で習得できるように、っていう組み合わせの授業もやることができました。
- 委員 音楽とか、体育とか、図工とかは、大勢いた方が良いですよ。そこは一緒にして、あの7人では合唱は出来ないんで、2クラス一緒にして10何人でやるとか、体育とか音楽、それと図工なんかも2学年で差もありますが、そこは、個人差もいろいろあるので、一緒にしてお互いの良さを見合いながら一緒にやっていく。

- 委員 その複式学級の子たちとね、そうでない、会長も言っていましたけど、大きな学校ってありますよね、その子たちとの“成績の差”っていうのは、どんなもんなんですかね？
- 委員 たぶん、小規模校の方が良い。小学校だと良いのかなって、っていうのは、手が届くっていうか…。
- 委員 考えても少ない方がいいと思うけどね。いいんだろうけど、複式の場合だと。
- 委員 そうそう、手が届くのでね。
- 副会長 中学校になるとまた、切磋琢磨とかって、こういうのがあって。競争力っていうか、競争心が生まれてこないの、そういう面でのデメリットはあるんです。ただ目が行き届くっていうことはあります。
- 委員 個別学習的な入り方が、それくらいの人数だとできますので、より丁寧な教え方というか、はできると思いますね。
- 委員 それは、複式学級の子たちってことだよ
- 副会長 ただ、中学に来ますところ、やはりそこがね、競争してかないとならない。テストも多くなりますし、ということで言いますと、中学向きではない。
- 委員 少なくとも多くても、もともと頑張る子は頑張るでしょうしね。そういう事もあると思いますよ。一概に全部とは言えないと思いますけど。今の南上の様子だと、小っちゃいから、(学力が)落ちるっていうよりか、むしろある程度、頑張っているかなあって思いますけどね。
- 委員 南上の校長先生に聞きたいんですけど、子供たちは統合について何か、ありますか？
- 委員 子供たちですか。子供たちには統合の話はまだ正式には……。

保護者の方たちには、PTAの運営委員会の方へ、一応こういう会が開かれるから、たぶんきっと新聞にも載るようになるような形になると思うんで、「前回の、前の時の答申を受けてこういう会が開かれます。」と伝えてあって、「皆さんにもお話して下さい」ってことと、忌憚りの無いご意見を集めてくださいってことでお願いしてあるんですけど、子供たちには、まだその話をしてないです。

どういう風に、それをしていったら良いものかっていうのは、また、経験のある先生にもお伺いしながら、子供に その辺をどうして行くかってことと、“噂”が先に先行しないように、やっぱりしなくちゃいけないな、とあって、そういうこともあるので、また、子供たちも大人と違って理解度がいろいろあるので、どういう風にそれを伝えていくかってことをまた、慎重に考えていかなきゃ、また教育委員会さんとも相談させていただきながら…、今のところはまだ、あんまり知らないんじゃないかなと思います。

委員

私は南中地区の代表なんですが、これは南伊豆町全体の問題だと思うんですよ。要するに少子高齢化で、もう時間の方が早いピッチで進んで行く。だから確かに統合って問題が出てくるかもしれないんですけど、でも地元の方は「存続してもらいたい。」って意見が多いんじゃないんですか。

だから、先程見た『大川小』のことなんかを考えれば、やっぱり、できるだけ存続の方向に持っていかないと、まあ、統合するのは簡単かもしれないけど、やっぱり今、南上なんかは、毛倉野から上小野、下小野 なんかは、人が増えているし、若い人たちが家に帰ってきていると、だから農業なんかは結構、有機農法のあれで、みんな支持者が多いもんでね。

南中地区よりも南上の方が、今増えている可能性もあるんじゃないですか？特に毛倉野とかね。

だからそういう可能性をもっと追究して、やっぱり南伊豆町全体の問題として、南上だけじゃなくて。

だからもうちょっとこう、人を、上へとね、若い人を住まわして、それには働く場所が無いと。だからこれはなかなか、少子高齢化と言っても解決が出来ないのは、もうちょっと…、今ここに役場の方がいらっしゃいますけど、何とか存続できるように、そうすれば、みんな、あそこへと人が、魅力があって来るような、町づくりをしてければね、徐々に。

そうしないと、ただ待っているだけで、何にもしないまま人口は減っていく。

でも大川小みたいに、そういう風に残してもやっていけるっていう可能性があるのなら。やっぱり…、で、ましてや先程言ったように、お父さんが校長先生をやったような人が残してほしいって希望があるんだから。

もうちょっと存続の方をね、可能性を考えて、まだまだ、もうちょっと頑張れば何とかかなと思います。

委員 ありがとうございます。

委員 自分もこの諮問の内容につきまして、教育のことを原点にずっと考えなきゃいけないのか、それとも地域として学校が、そこに在るべきだということも一緒に考えて良いのかっていうのを質問したかったです。

会長 それは教育だけという風にはいかない面があると思いますね。だけど、総合的に判断するようになると思うんですが、地域としては、学校が在るのと無いのと、どうであろうかと言うことは、やっぱり大きな問題かなあと思いますし。

委員 その辺のところをこないだ三浜で、今まであった学校の地域の人たちが、学校が無くなってどうだったとか、或いは南崎なんか今まで在って、無くなって南崎はどうなったのかというのを含めて、一緒にこの諮問の中で話し合いをして良いのか、ただ学校編成の、人口だけで話をするのか。その辺もちょっと。

会長 前回の時もやはり、地域としてという意見も、地域としてこうゆう風なことを願いたいという…。

委員 でも、地域の事は何にも書いてないですよ。地域性で残してほしいとか、その辺のところは、資料に載ってないでしょ。諮問の内容にも。では、今後はそういうことも考えてください。

会長 考えて、そういう考えも出ざるを得ない面もあるのかなあと思うんですけどね。

委員 この『学校統合審議会』というのは、今まで平成17、18年頃から継続してき

たやつが、今回また、これでということ？

この平成26年度になったから、こういう風に集めてやってるってことですね？

事務局 そうですね。

委員 そうですよ、町長は何ですか、そういう風で、急に言い出した訳ではないんですよ？南上小学校を何とかしろとか？ そういう訳ではないんですよ。

事務局 はい。そういう訳ではないです。

会長 他にありませんか

委員 11ページの『児童数の推移』を見ますと、平成32年までは、現状な生徒数ぐらいで推移しているようになっていますけど、後6年程ありますんで、小規模の学校も、園もありますんで、人を呼べるような、少ない学校ながらも魅力ある教育、農業体験とかもやってますよとか、そういうことをアピールしていただいて、あと住居の問題ですとか、なんとか、もっと上手いこと若い人に来てもらって、増えていくようなことをこの会に何とかしていただいて、学校を残していただきたい、って言うのが私の思いなんですけど。

事務局 もちろん、よくある話なのか、よくない話なのか、分んないですけど「福祉」と「教育」は、税金の使われ方は、あまり考えて良いのか悪いのか論になってくると思うんですが、けど、今の若い人を呼ぶための施策等々ですよ、これが南上小を残す、まあ残すためと言うわけではないんですが、何とか存続のために使うのか、使わないのか、どういった手法なのか、というのをこの審議会の中で、また意見をいただきたいと思います。

どういった政策が適なのか不適なのか、でそれに対するもちろんコストもかかると思います。それで、他の学校との兼ね合いもあろうかと。

その辺は慎重にやりたいと思います。逆に、どんなアイデアが有りますかね？

委員 そうですね…今は、高校に行っている子たちが地元で就職して、生活ができる、地元に残りたいって思えるようにしていかないと、どんどん若い人が都会に行

ってしまうと、人数がたくさん減ってってしまうんで…。

事務局

おっしゃるとおりで、例えば10月だったかな、9月の「広報みなみいず」を見ると、毎月、その月の、前月の出生数と死亡数がありますけど、南伊豆全体で9月だったかな、出生数は1人です。亡くなった人は12人。

今、人口8,900を切ったなかで、教育長の冒頭の挨拶でも、平成何年には何人というのが。

まあ、ちょっと話がそれちゃうんですけど、町長はそういうのも含めて、何とか町をやってかなくちゃいけないって言うので、石廊崎の再生だとか、自主財源を取るための地熱発電の研究 などなどを行っているわけで、これと言った効果的なものが何か、判らないですし、私も町長じゃないんで、こんなことを言って良いのか判らないですけど、全国的な問題だと思います。

「人を呼べるような」とか、「地元にもどりたいと思えるような」っていうのは、もちろんおっしゃるとおりで、あるべき姿ですけど、かなり高いハードルを頂いちゃったなあっていうのが、正直な感想ではあります。これは正直な感想ですけども、その中で、これは南上に限らずの話だと思うんですが、何が得策かというのは、今町長がやっている町づくりのワークショップ、等々で、当然ながら地熱発電ができれば良いのかっていう問題ではなくて、地熱発電のその先には何かあるだとか、産業・雇用っていうのも含めてやっている中で、ちょっと今この場所で答えを出すっていうのは、なかなか難しいなっていうか。

ここでの話っていうのは、おそらく『複式』の話になると、当然ながら地域性の話が出ると思います。

精神的な支柱というか、地域のシンボルの学校をどうするかっていう話なんです、当然そういう話になると思うんですが、あくまでも12ページの表であるように、問題は、その赤い枠の中の子供たちが、これから生まれてくる子供たちが、この状態が良いか悪いか、その教育論でいくところがある程度は必要かなとは、当然思います。

これはその学校が無くなれば、そりゃ、ある方が良いに決まっています。

それは、当然のことだと思います。でも、教育の姿としてどうなのかっていう事を議論する場でありたいなど、個人的には、事務局としては、思っている所です。

会 長 人口増対策については、どうのこうのと言うのは、この場ではちょっと…。南上小学校の在り方として、どうあるのが良いのかなあ、と受け取って考えていただけると良いと思うんですけど。

私、複式で気になるのはひとつ、複式があつて、次の年は解消されるっていうのは、またあつて解消されるって、そういうのであると 良いのだけれど、連続して複式、例えば 11 ページの表でいくと、平成 26 年度の 2 年生は 5 人で複式になっているんですが、その 2 年生は、年度を追って見ていくと、ずっと複式なんですね。で、6 年になって初めて単独になると、ずっとうと複式でいって、6 年で単独という。

そのずっと複式で行くことが良いのかなあ、どうなのかなあ っていうような、私はそういう点がちょっと気になっているとこなんですけれど…。

なんか自分としては、単年度だけでなく、オール単学級が良いよなあとは思ひし、やむを得なく複式になったとしても、そういう複式は、ある時だけで済むというような……、ってことは、子供にとっては…、

現在の 2 年生ですか？ その子どもにとっては、それで良いのかなあ…どうなのかなあと、ちょっと判んないんですけど。

まあ、今ちょっと気になったんで。

委 員 実際、今、現役でお子さんを南上小学校に通わせている親御さんのご意見をね、ちょっとお聞きしたいなあーと思うんですけど。

複式の事も含めて…。

会 長 じゃ、どちらか？

委 員 子供は 3 人いまして、今、一番下の息子が小学校 6 年生です。

自分の子供にしてみれば、『複式』をたぶん経験してないと思うんですけど。友達の数も、自分が卒業した頃よりは半分以下の人数なんですけど、友達関係にしてもそんなに問題もなく、まあ勉強はしない方なんですけど、楽しく学校へ通っているんで、自分は今のままで良いと思っていますし、これからの事も考えて、この状態で続けられるんだったら、このままで良いのかなあって思っています。

ただ、将来的にやっぱ高校・中学、高校とか卒業して、ここに残れとは、言ったことは自分は一回も無いです。子供に対しては。

一回は外に、そんな感じですね。

委員

会長が言ったとおりでありまして、子どもを見てましてですね、私も、元は稲取出身なものですから、当時は4クラス、5クラスあった雰囲気勉強させてもらいまして、その当時は、その当時で良かったってイメージも有りますし、複式っていうのも確かに経験したことは、自分は無いものですから、改めて学校の現場を見て、子供たちの目を見て、複式がはたして悪いものか、子供主体で考えていただけるっていう風に、いろいろ話、子供の目線で、って言うていただいたものですから、できたら本当に、この会場だけで話をするのはなくて、時間が取れるかどうかわかりませんが、見ていただければ、一番良いのかなあっと、子供たちを見て、ああこれじゃダメだ、このまんまじゃ複式をやってて良くないんじゃないかって思える状態だったら、みんなが意見が一致して、統合なりした方が良いて意見が出てくると思うんですけど、このままじゃ、この現場の話聞いていて…。本当にすいません。あの…

区長さんの中で『複式』っていうものを理解していらっしやらない方もいますんで、「こういう様な感じで授業をしているんだよ」と、「国語・算数4教科は別にしているんだよ」と、デメリットもメリットもあると思いますので、できたら、そういう現場を見ていただいて、こういう話合いもできたらいいなってふうに個人的には考えておりました。

前回の審議会も、「複式」のやつもあったんですけど、竹麻小学校と三浜小学校も、南崎小学校も、こういうことをやっていただいているっていう話を聞いた時に、そういう現場を見て、そういう審議会をやられていたのかなって、見て、そういう風に結論を出したのかなって、いうようなところもあったものでしたから、質問みたいなのところもあるんですけど、そういったことをやられて、審議会が行われていったのかなあ？なんて思って、そこら辺のところも。すいません、質問みたいになってしまったんですけど、どうなんでしょうか？

会長

一度、現場を見てみたいというようなご意見なんですけれど、いかがでしょうか。そういう希望と言うのは他の方もあるでしょうか。

委員

見ても判るものかな。専門家なら判るだろうけど。

- 会 長 実際には、子供の姿が直に見られるということだと思っんですけど。
- 事務局 事務局としては、当然、学校の許可を得なければならないんですが、学校の許可が得られたら、ちょっと調整をできる範囲でしたいと思います。
抜き打ちで行きたいですけどね。
- 委 員 はい、いつ来ていただいても、子供たちは明るく元気に、たぶんやっていると思います。
- 副会長 表情なんかも見られると思いますので、楽しそうにやっているとか。
- 委 員 楽しくやっていると思います。
- 副会長 ああ、こんな風にやっているのかっていうのも見られますし、本当にご覧になった方がよいですね。
- 委 員 こないだ学校開放日の時に、自分の職務として招待されましてね、学校を見てきたんですけど、なかなか子供たちが仲良くと言いますか、小さいながらの良さっていうのがね、すごく感じました。
それと連帯感と言いますかね、地域に根差したって言いますかね、そういうことを感じられる南上の学校の気風を感じました。
- 会 長 今、出ました「学校を実際に見てみたい」ということについては、学校の迷惑にかからないなかで、教育委員会の方で計画が立てられるようでしたら、また見に行くというようなことで、見に行きたいと思います。
今日はもう時間になりましたので、内容の方はここで締めたいと思います。
最後に事務局で
- 事務局 今日は、第1回ですですので“現状”。現状で、過去こういった経緯でこの審議会があるよと、それで、下田を含めた賀茂郡で、あるいは南上の現状が共通認識できたかなと思っています。
今日欠席された委員、それと途中退出された委員にも、それと皆さまにも議事録が整い次第お渡しいたします。

共通認識したと言ったところで、次のお題目という話に入っていきますが、またちょっと、とりあえず1回共通認識したところで、また年明けになりますが、第2回の通知を出ささせていただきます。

それと後、また高橋校長と話をさせていただいて、せっかくですから、今、給食1食 270円で、それを含めてですね、実際どんな雰囲気で作ってるか、ただ1時間経って見て終わるのでも無いし…。そういうものの、皆さん仕事されているので大変。私は、これが仕事だから行けるんですけど…。

校長先生、また相談にのってください。

また次からは、どうしても切っても切り離せられない“コストの問題”だとか、或いは、教育の、複式の良し悪しに、もうちょっと突っ込んだ角度で資料提供していきたいなと思いますし、

この委員会は、皆さんと一緒に作っていく委員会なので、今、鈴木委員が言っていたとおり“現場に行こう”という話も出ました。

あと、アンケートを取ってみたい だとか、あの人はどう思っているだとか、こういう考えもあるんじゃないかとか、とかは、事務局の方に伝えてください。2年間の長いか短いか、私は判りませんが、皆さんが納得した形でやるのが…、それと『有りき』でないっていうのが、常々言っている話なもので、皆さんの活発な提案を求めている所でございます。

以上、事務局からの連絡でございます。

時間的には、皆さん仕事をされているので、どうしてもこの時間になってしまうのですが、これから1月、2月になってくると、どうしても寒くなってきますが、なかなか6時30分っていうのは、厳しいですよ、皆さん。

どうせなら、皆さん一同に集まってスタートって行きたいんですが、どうしてもこの19時っていう設定でよろしいでしょうか？ 特にPTAの皆さんいかがでしょうか？

「…」特に意見なし

特に意見が無ければ、では、副会長締めさせていただきますか？

副会長

今日は、第1回ということでしたけれど、真剣なご討議ありがとうございました。第1回なんですけれど、皆さんが日頃思われている事、また、私たちが現場で感じている事の違っているのが今日は判ってきましたし、地域の思い、

それから現役の保護者の方々の考え方というのも、今日判りました。
今後の方向性も少し見いだせたところもありますんで、よりそのあたりに焦点絞って、そのあたりっていうのは、『複式』って何ぞやと、言うものとかね、もっと他にメリット・デメリットがあるのかと言うところを次回は探っていきたいと思いますんで、よろしくお願ひしたいと思います。
本日は誠にありがとうございました。